跪

御手水間

一間〇註略凡主上御座不可向西之由、在江記、御手水可向北也、嘉保行幸院相撲御劒置御座東、是不可西向心也、向西トモ角ザマニ可著座也、

〔類聚名義抄五足〕跽其几其矣反、ヒサマツク、　蹦跀俗ヒサマツク　跪渠鬼反、ヒサマツキ、音詭、又音危、　踞跟跪行、ヒサマツク、音長、　趾俗

踍正　跍跌俗

〔伊呂波字類抄比人事〕跪ヒザマツク胡跪　啓　蹲　踞　突　跽　踞跟跪　顙已上同ヒサマツク

〔書言字考節用集九言辭〕跪ヒザマヅク　踞同

〔釋名三釋姿容〕跪危也、兩膝隱地、體危隍也、

跽忌也、見所敬忌、不敢自安也、

蹲踞

〔類聚名義抄五足〕蹲音存、ウスクマリ、シリウタク、和ソン、　踆俗　踞シリウタク、ウスクマル、音據、　蹲踞ウスクマリキル　跌ウスクマル　跠ウスクマリキル

〔書言字考節用集八言辭〕蹲踞ツクバウ　倨傲同　蹲踞チマル　箕踞ウヅイ指南、伸兩脚、坐曰箕踞、　蹲踞ウヅクマル　〔同九言辭〕踞シリウタケ文選註、却倚也、　箕踞同

〔倭訓栞前編四字〕うづゐ　跠をいふ、うづくまり居也、論語に夷俟と見えたり、〇中略

うづくまる　蹲踞をいふ、古事記にうづすまりとも、萬葉集にうすくまりとも見ゆ、うづみくまりにて、埋隱の義成べし、今いふつくばふ也、

〔倭訓栞前編十六都〕つくばふ　蹲居の俗語也、突匍匐の義成べし、つくぼるといふも同じ、

〔日本靈異記中〕孤孃女憑敬觀音銅像示奇表得現報緣第卅四

牡飢言、我飢賜飯、妻言、今進、起竈燃火居于空瑪、押頰而蹲、〇中略

蹲ウスクマリ

〔古今著聞集十六興言利口〕さて月ごろへて、女晝のつれ〴〵なりけるに、はぬいといふ物して、うずく